

PAT-NO: JP408268475A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08268475 A

TITLE: PROTECTIVE COVER FOR TELEPHONE

PUBN-DATE: October 15, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

MORI, MASAHIKO

YASUTOMI, SADA O

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KK HASHISEN

N/A

APPL-NO: JP07071315

APPL-DATE: March 29, 1995

INT-CL (IPC): B65D081/03, B65D077/26

ABSTRACT:

PURPOSE: To enhance the feeling of holding a telephone, and absorb a shock at the time of dropping the telephone by providing a protective cover for covering a portable telephone.

CONSTITUTION: An elastic function is imparted to both right and left side face parts 4, 5 of a front face where at least a manipulation window is formed in a cover main body 1 for protecting a telephone. It is so designed that when the telephone is held by a user, his hand holds the portions to which the elastic function is imparted and that a shock at the time of dropping the telephone is absorbed by the portions to which the elastic function is imparted.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-268475

(43) 公開日 平成8年(1996)10月15日

(51) IntCl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 81/03			B 6 5 D 81/14	D
77/26			77/26	P

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-71315

(22) 出願日 平成7年(1995)3月29日

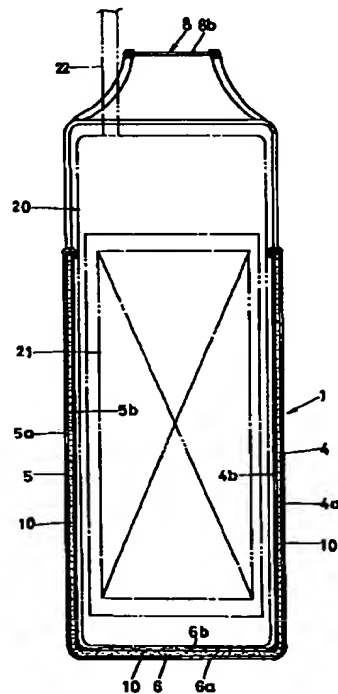
(71) 出願人 591222256
株式会社ハシセン
香川県大川郡白鳥町松原288番地2
(72) 発明者 森 昌彦
香川県大川郡白鳥町湊1975-1
(72) 発明者 安富 貞雄
香川県大川郡白鳥町松原1153-6
(74) 代理人 弁理士 大浜 博

(54) 【発明の名称】 電話機の保護カバー

(57) 【要約】

【目的】 持運び可能な電話機20を被覆する保護カバーにおいて、握持感覚を良好にし得るとともに電話機を落としたときの衝撃を緩和し得るようにする。

【構成】 カバー本体1における少なくとも操作窓7を形成した面2の左右両側面部4、5に弾性機能を付与し、握持時に手が弾性機能付与部分に対応するようにするとともに、該弾性機能付与部分により落下時の衝撃を緩和させるようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 持運び可能な電話機(20)を被覆するカバー本体(1)に、電話機(20)の操作部(21)が対応する部分に操作窓(7)を形成した電話機の保護カバーにおいて、前記カバー本体(1)における前記操作窓(7)形成部分を除き且つ該カバー本体(1)における少なくとも該操作窓(7)を形成した面(2)の左右両側面部(4, 5)に弾性機能(10)を付与したことを特徴とする電話機の保護カバー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本願発明は、携帯電話あるいはコードレス電話等の持運び可能な電話機の保護カバーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】この種の持運び可能な電話機(特に携帯用電話機)には、保護カバーで被覆したものがあがるが、従来から使用されている電話機の保護カバーは、皮革又は合成皮革のような比較的柔軟な1枚ものの材料で電話機の操作部を除くほぼ全面を被覆し得るように形成されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、従来の電話機保護カバーでは、全体を皮革又は合成皮革のような1枚ものの材料で形成しているが、このように1枚ものの材料だけでは、保護カバーつき電話機を手を持ったときに、電話機の堅さが手に伝わり、ゴツゴツした感触(強い感触)があつて握持感覚がよいものではなかった。又、このような1枚ものの材料製の保護カバーでは、誤って電話機を地上や床面に落としたときに、衝撃が電話機本体に伝わり易くなり、電話機が故障する危険があつた。

【0004】本願発明は、上記した従来の電話機保護カバーの問題点に鑑み、握持感覚を良好にし得るとともに電話機を落としたときの衝撃を緩和し得るようにした、持運び可能な電話機の保護カバーを提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本願発明は、上記課題を解決するための手段として、持運び可能な電話機を被覆するカバー本体に、電話機の操作部が対応する部分に操作窓を形成した電話機の保護カバーにおいて、カバー本体における操作窓形成部分を除き且つ少なくともカバー本体における操作窓を形成した面の左右両側面部に弾性機能を付与したことを特徴としている。

【0006】カバー本体の材料としては、皮革又は合成皮革、あるいは布のような比較的柔軟な材料が好ましい。又、カバー本体の材料として、例えば皮革又は合成皮革を使用する場合には、該材料に、凹凸加工(エンボス加工)をしつたりあるいは滑り止め剤を塗布したりする

等の適宜の滑り止め加工を施すとよい。

【0007】弾性機能を付与するための材料としては、ポリウレタン、スポンジ、フェルト、エアークッションのような面状のものや、あるいは多様な形状の合成樹脂製枝バネ等からなる緩衝材が使用可能である。該緩衝材は、少なくともカバー本体における操作窓(前面)を形成した面の左右両側面部に取付けられるが、該緩衝材は、左右両側面部のほかに操作窓(前面にある)を除く適所(例えばカバー本体の後面部や底面部)にも取付けることができる。又、該緩衝材の取付けは、その取付け面の全面でもよいし又は一部の面(例えば角部付近)でもよい。さらに、緩衝材の取付方法としては、縫い付け、接着剤又は粘着テープ等による貼着等の方法が採用可能である。

【0008】

【作用】保護カバーつき電話機を使用するときには、保護カバーの後面部から左右両側面部を握持して行われるが、そのとき、手が該左右両側面部に強く接触する。ところで、本願発明の電話機の保護カバーでは、該左右両側面部に弾性機能を付与しているため、この保護カバーつきの電話機を握持したときに、手にソフトな感触が生じるようになる。又、この保護カバーつき電話機を誤って落下させたときに、弾性機能付与部分が地上又は床面に衝突した場合には、該弾性機能付与部分で衝撃を吸収するようになり、電話機に大きな衝撃が加わらなくなる。

【0009】

【発明の効果】このように、本願発明の電話機保護カバーを使用すると、該保護カバーつき電話機を握持したときに、手が弾性機能付与部分に接触するので、握持感覚が良好になる(感触がソフトになる)という効果がある。又、この保護カバーつき電話機を誤って落下させたときに、弾性機能付与部分が地上又は床面に衝突した場合には、該弾性機能付与部分で衝撃を吸収するので、電話機を衝撃から保護できるという効果がある。

【0010】

【実施例】以下、図1～図3を参照して本願発明の実施例を説明すると、この実施例の電話機保護カバーは、携帯電話やコードレス電話等の持運び可能な電話機を被覆するものである。そして、この保護カバーは、皮革又は合成皮革あるいは布等の比較的柔軟な材料で、前面部2と、後面部3と、左右両側面部4, 5と、底面部6と、上部開口を開閉する蓋8とを一体的に形成(縫製)したカバー本体1で構成している。

【0011】カバー本体1の前面部2には、電話機20の操作部(各種ボタン部や表示部を含む)21に対応する形状の操作窓7が形成されている。この操作窓7には、透明な薄いシートが取付けられており、該シートにより操作窓7からのホコリや水の侵入を阻止し得るようになっている。尚、電話機20の操作部21は操作窓7

のシート外面上から操作可能となっている。

【0012】蓋8は、前面部2に連続しており、上部開口の上方に被せた状態で蓋の先端側8aを後面部3の上部付近に面ファスナー9で着脱自在に接着させている。尚、蓋8の上部被覆部分8bは左右に細幅としていて、その細幅部分とした空所部分から電話機20のアンテナ22を突出させ得るようにしている。

【0013】この実施例の保護カバーでは、左右両側面部4、5及び底面部6に跨って帯状の緩衝材10を取付けるとともに、後面部3にも別の面状の緩衝材11を取付けている。この緩衝材取付部分は、特許請求の範囲中の弾性機能付与部分となるものである。この各緩衝材10、11は、それぞれクッション性を有する材料が使用されている。該各緩衝材10、11の材料としては、例えばウレタンフォーム、スポンジ、フェルト、エアー

クッション等の面状のもの、あるいは多様な形状の合成樹脂製枝バネ等が採用可能である。

【0014】又、各緩衝材10、11は、図示例では、それぞれ外面材(3a、4a、5a、6a)と内面材(3b、4b、5b、6b)間に挟持させている。尚、他の実施例では、カバー本体1を1枚ものの材料で形成するとともに、緩衝材10、11を左右両側面部4、5、底面部6、後面部3にそれぞれ接着剤(又は粘着テープ)で貼着させてもよい。

【0015】カバー本体1の各外面材(3a、4a、5a、6a)としては、皮革又は合成皮革等の柔軟な材料が使用されており、緩衝材10、11が取付けられている部分はクッション性を有している。又、該外面材(3a、4a、5a、6a)には、凹凸加工(エンボス加工)あるいは滑り止め剤による加工等で滑り止め機能をもたせるとよい。

【0016】又、この実施例では、図3及び図4に示すように、カバー本体1の後面部3の外面に、例えばズボンベルトのようなベルト13、13'を挿通させるためのベルト挿通生地12が取付けられている。このベルト挿通生地12は、この実施例では、その左右両側部の各上端部及び下端部(合計4箇所)の小長さ範囲(例えばそれぞれ10~20mm程度の長さ範囲)を、それぞれカバー本体1の後面部3の外側端部に縫着(符号15)している。尚、この各縫着部15、15'は、後面部3の左右各側縁部と各側面部4、5のそれぞれ側縁部との縫い合わせ部17、17に同時に縫い込むと縫合工程が短縮される。このようにベルト挿通生地12を縫着すると、ベルト挿通生地12と後面部3間には、ベルト13'を左右方向に挿通させるスペース16(図3参照)が形成される一方、該ベルト挿通生地12の左右両側部にそれぞれ側部開口12a、12bと該ベルト挿通生地12の上下両端部に上、下各開口12c、12dがそれぞれ形成されるようになる。尚、各側部開口12a、12bは左右方向に挿通されるベルト13'の通口とな

り、又上下各開口12c、12dは上下方向に挿通されるベルト13の通口となるものである。

【0017】そして、この実施例の保護カバーでは、ベルトを図3又は図4に符号13で示すように上下方向(カバー本体1の長さ方向)に挿通させる方法と、ベルトを図4に符号13'で示すように左右方向(カバー本体1の長さ方向と直交方向)に挿通させる方法の2通りの使用方法を選択し得るようにしている。尚、電話機入り保護カバーをズボンベルトに対して横向き姿勢で装着する場合には、該ベルトを符号13で示すようにカバー本体1の長さ方向(上下方向)に挿通させるとよく、他方、電話機入り保護カバーをズボンベルトに対して縦向き姿勢で装着する場合には、該ベルトを符号13'で示すようにカバー本体1の長さ方向と直交方向(左右方向)に挿通させるとよい。このように、本願実施例の保護カバーでは、単一のものであっても、ズボンベルトの挿通方向を選択することにより、該ズボンベルト13(又は13')に対して電話機入り保護カバーを横向き姿勢と縦向き姿勢の2通りに装着できる。尚、従来の電話機保護カバーでは、ズボンベルトは、カバー本体に対して上下方向と左右方向の何れか一方にしか挿通させることができないので、電話機入り保護カバーを例えばズボンベルトに装着する場合の取付姿勢が横向きか縦向きの何れか一方に限定されてしまう。

【0018】この実施例の保護カバーは、持運び可能な電話機20に被覆して使用されるが、この保護カバーつき電話機20で電話をかけるときには、保護カバーの後面側から左右両側面部4、5を握持した状態で、操作部21を操作窓7のシート外面から操作する。このとき(保護カバーを握持したとき)、手が保護カバーの左右両側面部4、5に強く接触するとともに、後面部3にも手のひらが加圧的に接触する。ところで、この実施例の保護カバーでは、左右両側面部4、5及び後面部3にそれぞれクッション性を有する緩衝材10、11を取付けているので、この保護カバー付きの電話機を握持したときに、該各緩衝材10、11部分により手にソフトな感触が生じるようになり、握持感覚が良好となる。又、この保護カバーつき電話機を誤って落下させたときに、緩衝材取付部分(後面部3、左右両側面部4、5、底面部6)が地上又は床面に衝突した場合には、該緩衝材10、11で衝撃を吸収して、電話機20に大きな衝撃が加わらなくなり、該電話機20を衝撃から保護できるという作用が得られる。

【0019】尚、この実施例では、緩衝材10、11を、後面部3と左右両側面部4、5と底面部6とにそれぞれ取付けているが、本願発明では、該緩衝材は少なくとも左右両側面部4、5にあればよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明の実施例にかかる電話機の保護カバーの斜視図である。

5

6

【図2】図1のII-II断面図である。

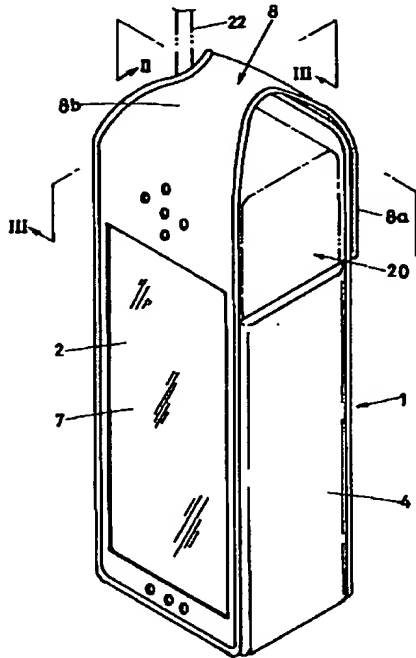
【図3】図1のIII-III断面図である。

【図4】図1の保護カバーの後面図である。

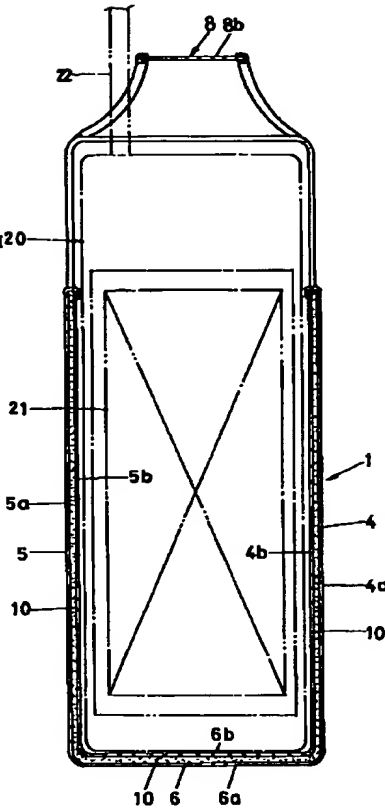
【符号の説明】

1はカバー本体、2は前面部、3は後面部、4、5はそれぞれ側面部、6は底面部、7は操作窓、10、11はそれぞれ緩衝材、20は電話機、21は操作部である。

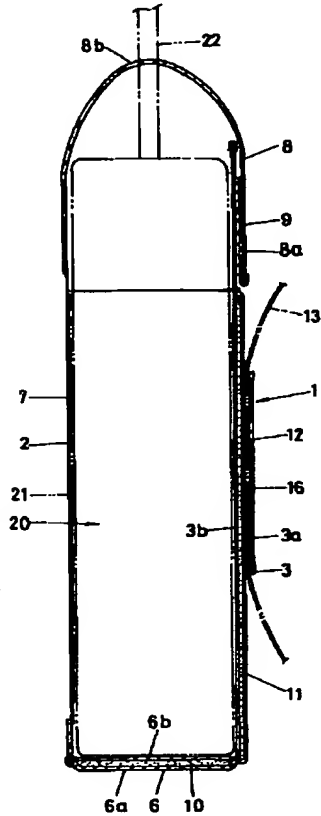
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

